



塩井一孝

Light of Langsuir

2024

光（フル・ランガット、マレーシア、8月、2024年）、和紙にインクジェットプリント、
パク・ランスウィヤーの葉、ウレタンクリア塗装

Variable dimensions

Kazutaka Shioi: Light of Langsuir、マレーシア国立美術館ランカウイ（ランカウイ、マレーシア）

作家蔵 | Artwork ID: LOL-001

光の写真を植物に定着させたインスタレーション

1か月間のマレーシア滞在制作の成果として発表したインスタレーション。クアラルン
プールの郊外のジャングルで撮影した写真を和紙に印刷し、現地に生息するシダ植物に
貼り付けた。マレーシアと日本の神話を重ねながら、葉の揺れとともに光と森の気配
を空間化した。



塩井一孝

Stone Garden

2025

鉄

Variable dimensions

Re-aksi, Soemardja Gallery (バンドン、インドネシア)

所蔵：バンドン工科大学 | Artwork ID: SG-001

石のドローイングを空間化した鉄のインスタレーション

インドネシア・バンドンでの滞在制作から生まれた作品。火山や湖、石灰岩の丘陵地帯を訪れ、そこで描いた石のドローイングを鉄の線によって立体化した。現地の自然と向き合う中で生まれた身体感覚と風景の記憶を、空間全体へ展開している。



塩井一孝

石 No. 1

2025

鉄

H 140 × W 160 × D 130 cm

塩井一孝展「偶然のランドスケープ」、みぞえ画廊 福岡店（福岡、日本）

作家蔵 | S-001

風景の記憶を石のような形へ置き換えた鉄の彫刻

これまで旅してきた土地の記憶や心象風景を、鉄の線材によって石のようなシルエットへ置き換えた彫刻作品。内部に空間を抱える構造によって重量のある外観と軽やかな線が共存している。石を神や気配を迎える依代として捉える、アニミズム的な感覚も背景に含んでいる。



塩井一孝

Rhythm

2025

鉄

H 144.5 × W 112 × D 10 cm

塩井一孝展「偶然のランドスケープ」、みぞえ画廊 福岡店（福岡、日本）

個人蔵 | S-006

鉄の線を集積し、風景のリズムを平面化した壁面彫刻

短く切断した鉄の線材を重ね、壁面に密集する構成をつくった作品。一本ずつ異なる方向へ伸びる線とその影が複数のレイヤーを生み、見る位置によって表情を変化させる。風景の中に感じる動きや時間を、鉄の反復によって可視化した。



塩井一孝

風景 260804

2026

鉄

H 80 × W 75 × D 75 cm

作家蔵 | Artwork ID: LSS-001

制作過程の偶然性を取り込んだ鉄の彫刻

これまでに見てきた風景の記憶を、鉄を素材に再構成した彫刻。形をあらかじめ入念に設計するのではなく、切り出した鉄板に合わせて次の部材をつくり、溶接を重ねながら形を立ち上げた。その過程で生じる歪みや溶接跡を造形の一部として積極的に取り入れている。



塩井一孝

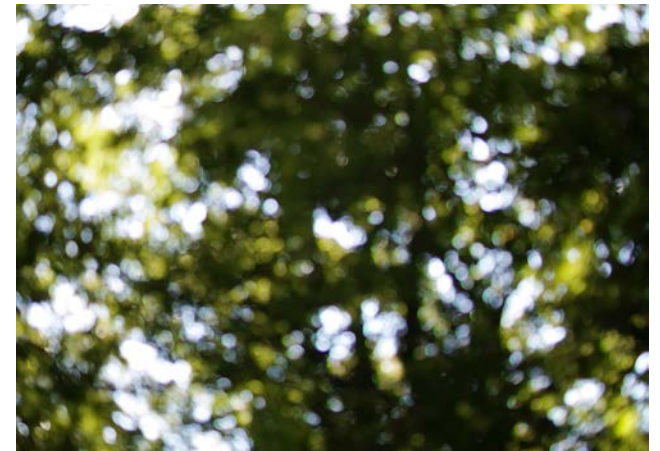
写光石：宗像大社 No. 31

2019

光（宗像大社、宗像市、福岡県、9月18日、2017年）、和紙にインクジェットプリント、石、
ウレタンクリア塗装

H 4 × W 8 × D 7 cm

個人蔵 | Artwork ID: SKS-216



宗像大社の光を自然石に定着させた立体作品

宗像大社の参道で撮影した木漏れ日の写真を和紙に印刷し、手のひらに収まる自然石に貼り込んだ作品。青や緑を帯びた光と石の形が一体となり、その場所で受け取った気配を物質として留めている。過去の光や風景の記憶に、触れることのできる形を与えた。



塩井一孝

写光石：宗像大社 No. 18

2018

光（宗像大社、宗像市、福岡県、9月18日、2017年）、和紙にインクジェットプリント、ガラス、ウレタンクリア塗装

H 7 × W 15 × D 7 cm

作家蔵 | SKS-G010

宗像大社の光をガラスに定着させた立体作品

宗像大社の参道で撮影した木漏れ日の写真を和紙に印刷し、吹きガラスによる石の形に貼り込んだ作品。光がガラスを透過すると色を帯びた影が床に落ち、過去に撮影された光が現在の空間に立ち現れる。写真を見るだけでなく、過去の時間へ触れるような体験を生み出している。



塩井一孝

写光石：宗像大社 No. 38

2023

光（宗像大社、宗像市、福岡県、6月16日、2023年、33.830491、130.513922）、
和紙にインクジェットプリント、石、ウレタンクリア塗装

H 110 × W 160 × D 110 cm

塩井一孝展「光の呼吸」、みぞえ画廊 福岡店（福岡、日本）

作家蔵 | SKS-250

光の写真を2トンの自然石に定着させた立体作品

宗像大社の参道で撮影した木漏れ日の写真を和紙に印刷し、約2トンの自然石に貼り込んだ作品。手のひらに収まる写光石を、人の身体を超える記念碑的な規模へ拡張した。時間の経過とともに表面は白く変化し、固有の光が再び太陽の白い光へ還っていくような過程を見せる。



塩井一孝

写光石の標本：宗像大社 No. 2

2022

光（宗像大社、宗像市、福岡県、日本、4月2日、2022年）、和紙にインクジェットプリント、石、ウレタンクリア塗装、木製パネル

H 130.3 × W 162 × D 5 cm

作家蔵 | SKSS-007

小さな写光石を集積したレリーフ作品

宗像大社の木漏れ日をもとに制作した小さな写光石を、木製パネルに集積した作品。一つひとつの石が光の標本となり、参道で受け取った記憶を一つの面として立ち上げている。2022年には、同様の作品が地元企業の協力によって宗像大社へ奉納された。



塩井一孝

写光石の世界地図プロジェクト

2021-2023

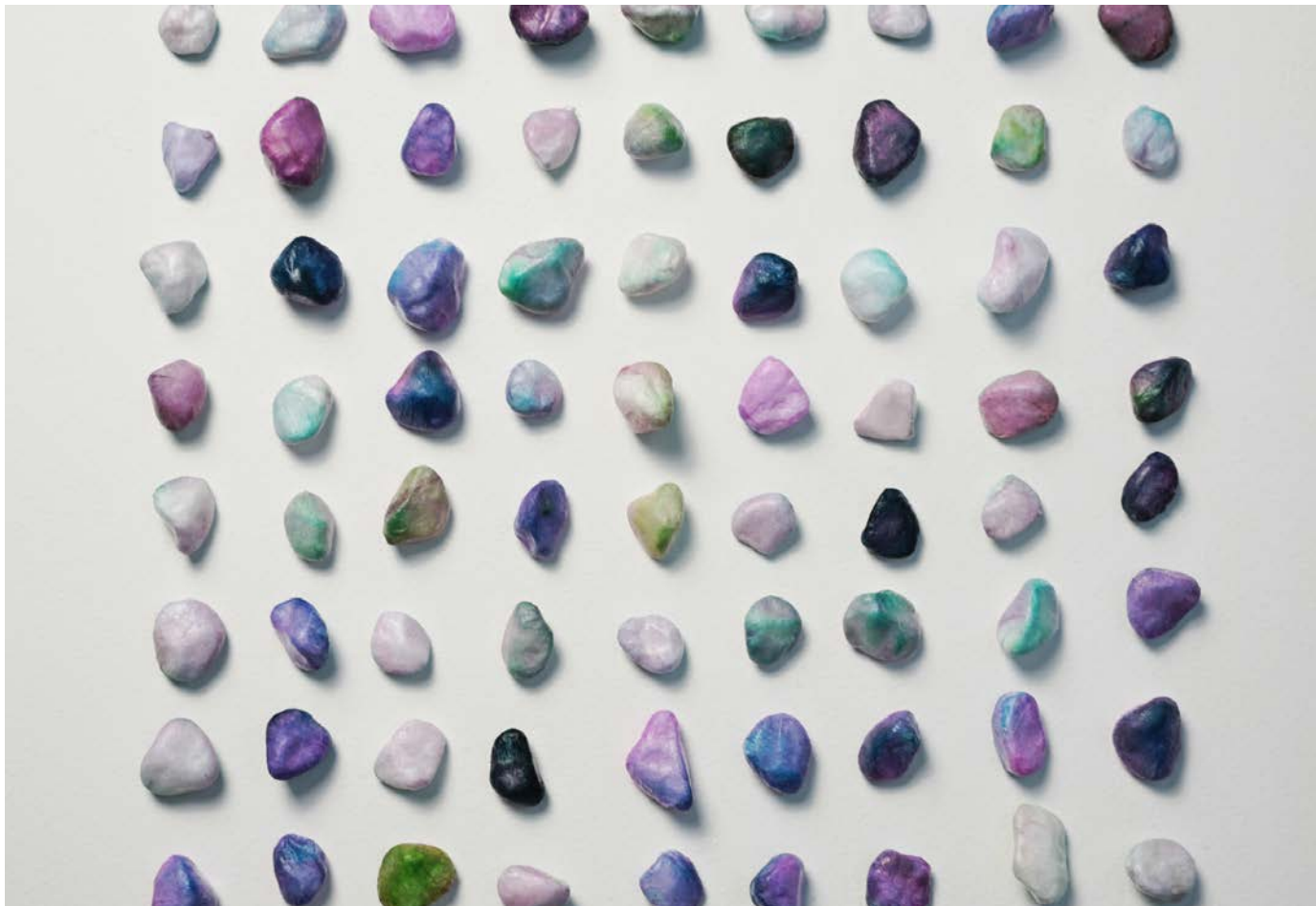
光（参加者提供の風景写真）、エピソード、和紙にインクジェットプリント、石、ウレタンクリア塗装、ウェブ地図

Variable dimensions

個人蔵 | Artwork ID: SKS-WMP-001

参加者の風景写真とエピソードを写光石へ変換した参加型プロジェクト

参加者から提供された思い出の風景写真を和紙に印刷し、一つずつ写光石へ変換したプロジェクト。写真にまつわるエピソードと制作された石をウェブ地図上で結び、世界各地の個人的な記憶を光の地図として共有した。作品が人の手に渡ることで、撮影者、制作者、所有者の意識がつながっていく。



塩井一孝

双葉の写光石

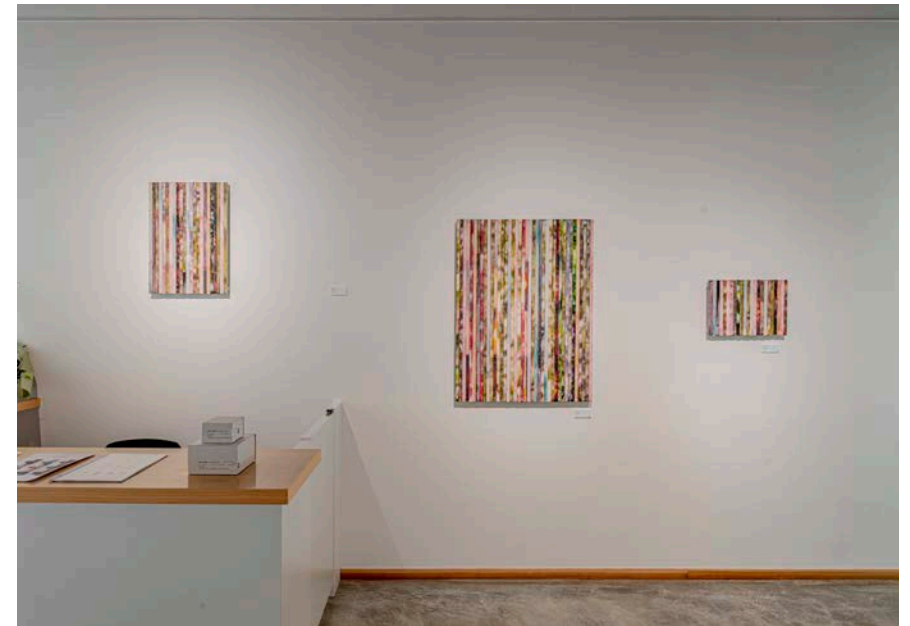
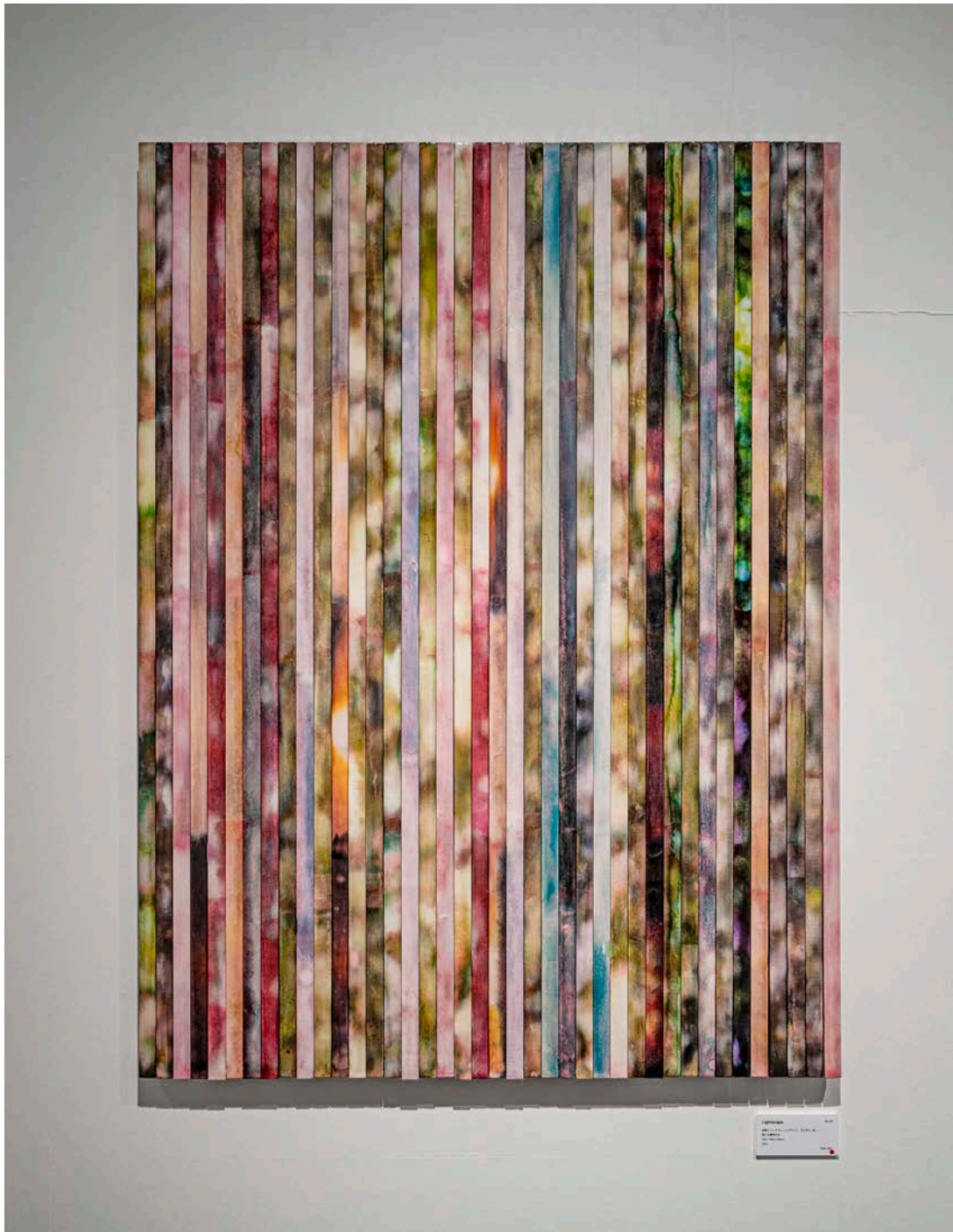
2024

光（双葉の海、福島県、日本、2月24日、2024年）、和紙にインクジェットプリント、石、ウレタンクリア塗装

個人蔵 | Artwork ID: SKS-SF-01

双葉の海の光を手紙と交換する参加型プロジェクト

福島県双葉町の沿岸で撮影した海の光をもとに、300個の写光石を制作したプロジェクト。原発事故後の町を取材し、海辺に残る光と風景の記憶を石に託した。作品は町内施設に設置され、来訪者が双葉への手紙と引き換えに一つの写光石を受け取る仕組みとして展開した。



塩井一孝

ライトスケープ No. 1

2023

光（様々な場所）、和紙にインクジェットプリント、ウレタンクリア塗装、木

H 100 × W 75 × D 3.5 cm

塩井一孝展「光の呼吸」、みぞえ画廊 福岡店（福岡、日本）

個人蔵 | LSL-001

異なる土地の光を集積した半立体作品

旅先で撮影した光の写真を和紙に印刷し、細長い杉材に貼り付けて集積した作品。異なる場所と時間から切り取られた光を一つの画面に組み合わせ、新しい光の風景を構成した。写真、彫刻、風景の境界を横断する「ライトスケープ」シリーズの起点となる作品である。



塩井一孝

ライトスケープ：フル・ランガット No. 2

2024

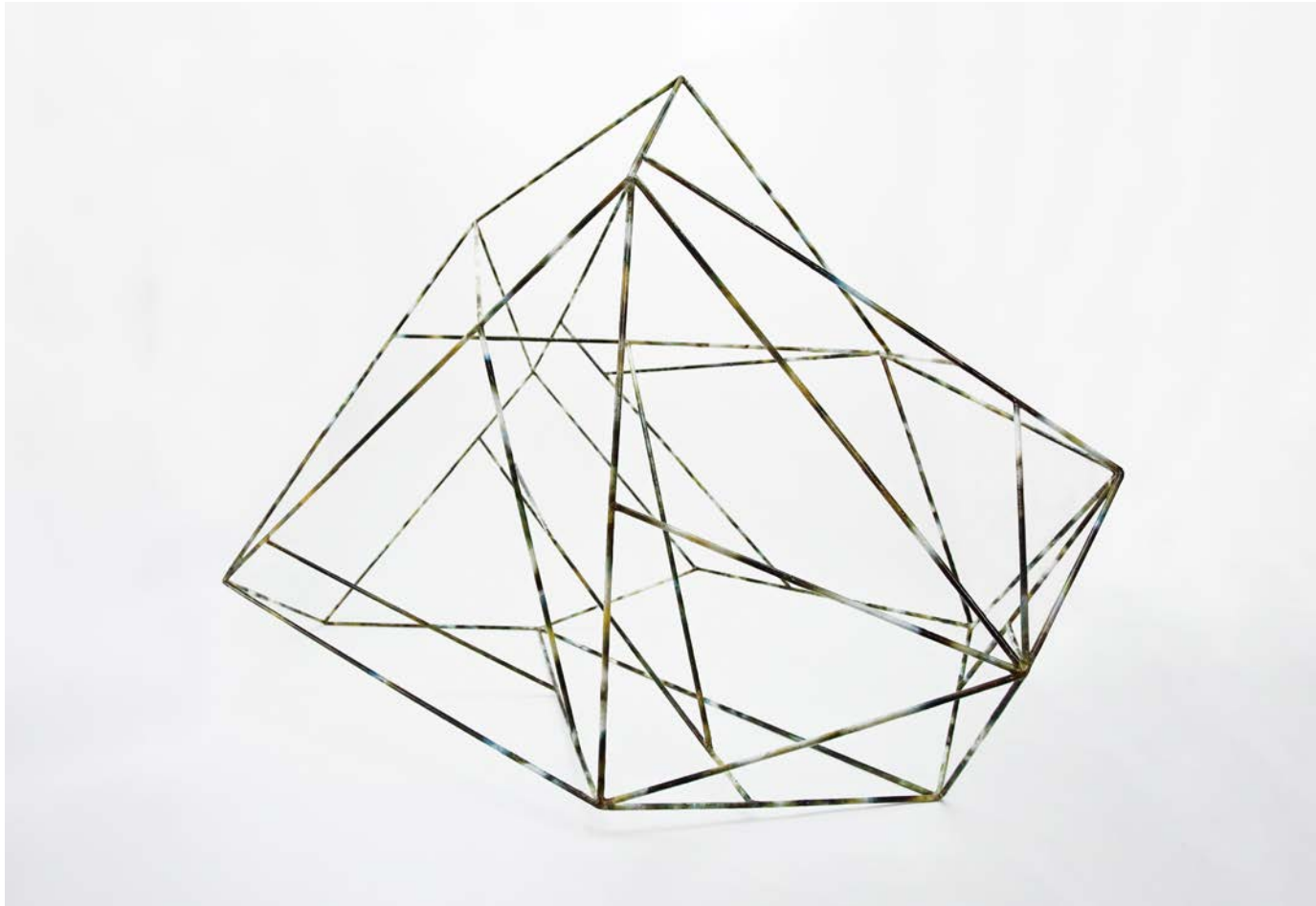
光（フル・ランガット、マレーシア、2024 年）、和紙にインクジェットプリント、木製パネル、ウレタンクリア塗装

H 65 × W 53 × D 2.5 cm

作家蔵 | LS-020

森の光を手でちぎり、余白とともに構成した平面作品

マレーシアでの滞在制作中に、フル・ランガットの森で撮影した写真を和紙に印刷し、手でちぎりながら制作した。断片化された光と大きな余白を組み合わせ、森の中で感じた音、色彩、湿度の記憶を画面に留めている。写真を再現ではなく、身体に残った風景として再構成した作品である。



塩井一孝

光の立体：宗像大社 No. 1

2019

光（宗像大社、宗像市、福岡県、日本、2018 年 9 月 18 日）、和紙にインクジェットプリント、鉄、
ウレタンクリア塗装

H 68 × W 100 × D 110 cm

作家蔵 | Artwork ID: DL-001

光の写真と鉄の構造体を結合させた立体作品

宗像大社で撮影した光の写真のを和紙に印刷し、鉄の構造体に貼り込んだ作品。写真に記録された光は鉄と結びつくことで物質的な存在となり、平面から空間へと拡張していく。光を写真の中に留めず、身体を通して感じられる立体として展開した。



塩井一孝

写光石：バンドン No. 4

2025

光（バンドン、インドネシア、2025 年 8 月）、和紙にインクジェットプリント、鉄、ウレタンクリア塗装

H 33 × W 38 × D 35 cm

作家蔵 | Artwork ID: SKS-259

バンドンの光を鉄の支持体に定着させた立体作品

鉄板を溶接して中空の石の形をつくり、その表面にインドネシア・バンドンで撮影した風景写真を貼り込んだ作品。自然石に光を定着させてきた写光石を、鉄によって再構成した。軽量化と形態の自由度を広げながら、光の作品と鉄彫刻を接続し、今後の空間的な展開を試みている。



塩井一孝

大島の標本

2016

鉄、宗像市大島で採取した流木や石等の漂着物

Variable dimensions

BAREHANDS、Asian Artist Residency Project - FUKUOKA、ギャラリーあしや（福岡、日本）

作家蔵 | Artwork ID: BRFUK-002

大島で採集した漂着物と鉄を並置したインスタレーション

福岡県宗像市の大島で採集した流木や石などの漂着物を、鉄でつくった形とともに展示台上へ配置した作品。自然物と人工物、漂着した時間と制作の痕跡を標本のように並置している。土地から物を採集し、その記憶を別の物質へ移す試みは後年の写光石へとつながっていった。



塩井一孝

INTO THE FOREST

2010

鉄、木

H 160 × W 160 × D 300 cm

塩井一孝展、konya-gallery (福岡、日本)

現存せず | Artwork ID: IF-001

森の空間を抽象化したインスタレーション

身近な森をモチーフに、採取した木の枝と鉄の輪を組み合わせ制作したトンネル状のインスタレーション。鑑賞者が内部へ入ることで、森の奥へと身体が進んでいくような感覚を生み出した。後年の制作に続く、森、風景、身体と空間の関係を探った作品である。



塩井一孝

LANDSCAPE-T

2008

鉄

H 180 × W 180 × D 180 cm

福岡教育大学 美術教育講座・美術 卒業制作展、福岡県立美術館（福岡、日本）

現存せず | Artwork ID: LT-001

風景を題材にした鉄の彫刻

故郷・宮崎県の高千穂峡をモチーフに、溪谷の岩壁を鉄の多面体として表現した作品。環状に構成された鉄の形は中央に大きな空間を抱え、その空白に川の流れを想起させる。風景をそのまま再現するのではなく、身体に残る故郷の記憶を立体として立ち上げた。



塩井一孝

時差

2007

鉄、水

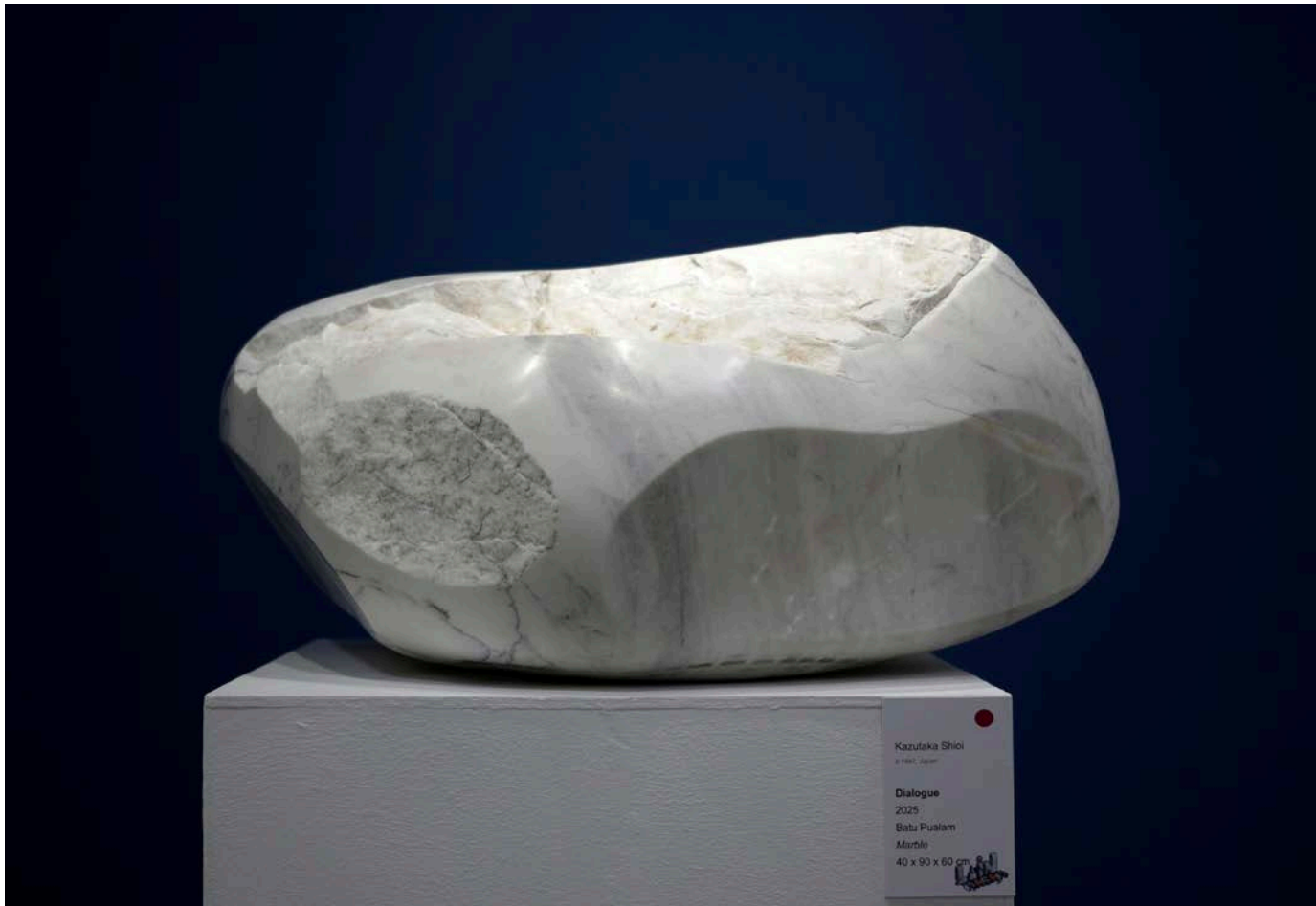
H 15 × W 300 × D 300 cm

台北ー福岡 現代美術交流展、關渡美術館、国立台北芸術大学（台北、台湾）

作家蔵 | Artwork ID: TD-001

錆によって時間の経過を可視化したインスタレーション

12 枚の鉄の皿に水を張り、床面へ環状に配置した作品。時間の経過とともに鉄の表面に錆が生まれ、水や周囲の空間と少しずつ結びついていく。円の内側と外側、異なる土地や時間の間に存在する、目に見えない「時差」を想像させる。



塩井一孝

Dialogue

2025

大理石

H 40 × W 90 × D 60 cm

Langkawi International Marble Art Camp 2025 (LAIN MACAM 2025)、
マレーシア国立美術館ランカウイ（ランカウイ、マレーシア）

所蔵：マレーシア国立美術館ランカウイ | Artwork ID: MS-001

現地の大理石と対話しながら制作した彫刻

マレーシア・ランカウイ島で開催された彫刻シンポジウムにおいて、現地の大理石を用いて制作した作品。石がもともと持つ割れや起伏を生かし、最小限の手仕事によって形を整えた。素材との対話を通して、自然の形と人の手による介入が共存する状態を探った。